様式2

都市再生整備計画　事後評価シート

上之地区

平成28年3月

埼玉県熊谷市

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県	市町村名	熊谷市	地区名	上之地区			面積	53.0ha
交付期間	平成23年度～平成27年度	事後評価実施時期	平成27年度	交付対象事業費	756.0百万円	国費率	0.4		

1）事業の実施状況

		事業名		
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	上之土地区画整理事業		
	提案事業	埋蔵文化財発掘調査現地見学会、緑化推進社会実験、安心安全のまちづくり事業		
		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	―	―	―
	提案事業	―	―	―
新たに追加した事業	基幹事業	第3号公園	第1期都市再生整備計画の成果を受け、第3号公園の整備を進め、周辺の住環境を向上させるため、事業を追加。	目標1の「住環境の快適性の向上を図る」に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。
	提案事業	―	―	―
交付期間の変更	当　初	平成23年度～平成27年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	―
	変　更	―		

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	幅員6m以上の道路整備率	%	20.5	H22	26.5	H27		24.4	△	あり		土地区画整理事業により、地区の課題である防災面や緊急車両の通行への問題解決が進むとともに、交通安全に対する不安解消が進み、地区の住環境の快適性と交通利便性が向上した。	平成28年5月
										なし	●		
指標2	安心・安全のまちづくりに関する啓発事業参加者数	人/年	15	H22	50	H27		53	○	あり		防犯講習会等の開催を通じて、安心・安全に関する意識が向上するとともに、第3号公園整備と相まって、地域のコミュニティ強化につながった。	なし
										なし			

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1	埋蔵文化財発掘調査見学会参加延人数	人	1,245	H22				2,629			歴史・文化に触れる機会を住民に提供し、地域の歴史に対する理解を深めることに貢献した。	なし
その他の数値指標2	窃盗事件発生件数	件	5	H22				1			防犯講習会等の開催による住民の意識向上や、防犯灯設置により、犯罪件数の減少につながった。	平成28年5月

4）定性的な効果発現状況

土地区画整理事業による整備が先行している第3号公園は、自治会がプランターを設置する等、みどりの拠点としての活用と相まって、住民同士の交流が促進され地域のコミュニティ強化につながった。

5）実施過程の評価

	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた		―
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
住民参加プロセス	①埋文化財発掘調査現地見学会 ②緑化推進社会実験 ③安心安全のまちづくり事業	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	①継続的にイベントの開催を検討する。 ②他の手法の検討も含め、更なる緑化の推進を図る。 ③安心安全に対する意識向上と地域交流の強化を図るため、住民主体による継続実施を支援する。
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた		―
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式２－２　地区の概要

上之地区（埼玉県熊谷市）　都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：住環境の整備改善と地域交流を推進し、快適で安心して暮らせるまちづくりを目指すとともに、埋蔵文化財発掘調査により歴史・文化にふれる機会を住民に提供する。	幅員6m以上の道路整備率	単位：%	20.5	H22	26.5	H27	24.4	H27
	安心・安全のまちづくりに関する啓発事業参加者数	単位：人/年	15	H22	50	H27	53	H27
目標１：土地区画整理事業の推進により、宅地として利用可能な土地を整理するとともに、排水設備、街路等の整備改善により、住環境の快適性と交通利便性の向上を図る。	埋蔵文化財発掘調査見学会参加延人数	単位：人	1,245	H22		H	2,629	H27
	窃盗事件発生件数	単位：件	5	H22		H	1	H27
目標２：安心安全なまちづくりを目指し、地域交流を推進する。		単位：		H		H		H



埋蔵文化財発掘調査現地見学会



安心安全のまちづくり事業





第3号公園



土地区画整理事業

まちの課題の変化	・土地区画整理事業により、下水道、道路等の都市基盤整備が進捗したことで、快適な住環境及び安全な道路環境が形成されつつあるが、土地区画整理事業は継続中であり、未整備箇所が残されているため、引き続き、課題解決に向けた整備が必要である。 ・安心安全のまちづくり事業での講習会の開催や、防犯灯設置により地域の安全性が向上した。 ・第3号公園への植栽設置による緑とふれあう空間の創出や、緑化推進社会実験の実施により、地区内の緑化が促進された。一方、地区内の緑の要素となる公園が一部未整備である。 ・土地区画整理事業を通じて、宅地として利用可能な土地が新たに創出されたことで、今後は地区内への居住を促進するとともに、新規居住者が溶け込みやすいコミュニティの醸成が必要である。
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	・安心安全のまちづくりに関する情報提供を継続して行う。 ・住民主体による講座等イベントの開催や、市広報などにより情報提供を行うことで、住民の防災・防犯に対する意識の向上を図る。 ・今後見込まれる新規居住者が溶けこみやすい住環境の形成に向け、住民主体のまちづくり活動支援や活動の場を提供することで、住民間の交流を促進する。 ・住民の交流の場となる公園整備を推進するとともに、公園内の緑化を図る。 ・土地区画整理事業の完了に向け、今後も事業の進捗を図る。 ・地域住民の生活道路の改善を行うため、道路整備事業を継続的に実施する。

都市再生整備計画　事後評価シート
（添付書類）

（1）成果の評価

添付様式1－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
添付様式1－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（完成状況）
添付様式2－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
添付様式2－②　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）により計測される効果発現の計測
添付様式2－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

（2）実施過程の評価

添付様式3－①　モニタリングの実施状況
添付様式3－②　住民参加プロセスの実施状況
添付様式3－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

（3）効果発現要因の整理

添付様式4－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制
添付様式4－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
~~添付様式4－③　数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理~~

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制
添付様式5－②　まちの課題の変化
添付様式5－③　今後のまちづくり方策
添付様式5－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見
添付様式5－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
添付様式6　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
添付様式6－参考記述　今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　　事後評価原案の公表

（6）評価委員会の審議

添付様式8　　評価委員会の審議

（7）有識者からの意見聴取

~~添付様式9　　有識者からの意見聴取~~

（1）成果の評価

添付様式１－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他（　　）		●			

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園	第3号公園	－	－	13	公園整備[遊具・植栽]	第１期都市再生整備計画の成果を受け、第3号公園の整備を進め、周辺の住環境を向上させるため、事業を追加。	目標１の「住環境の快適性の向上を図る」に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設									
高質空間形成施設									
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業（都市再生）	上之土地区画整理事業	494	街路築造、建物移転、排水施設及び用水路の整備	738	街路築造、建物移転、排水施設及び用水路の整備	事業開始から相当の時間が経過しており、事業進捗スピードの加速化のため、交付期間内の事業費を増額。	指標1「幅員6m以上の道路整備率」に関連するが、数値目標は据え置く。		●
住宅市街地総合整備事業									

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画 事業費	当初計画 事業内容	最終変更計画 事業費	最終変更計画 事業内容	当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況 完成	事後評価時の完成状況 完成見込み
地域創造支援事業	埋蔵文化財発掘調査現地見学会	1	埋蔵文化財発掘調査見学会及び出土品の展示会の開催	1	埋蔵文化財発掘調査見学会及び出土品の展示会の開催	―	―	●	
	緑化推進社会実験	2	緑化推進に関する補助	1	緑化推進に関する補助[新築（曳家を含む）した人に記念樹となる苗木を一部補助]	・文言整理を行い、社会実験の内容を明確化 ・交付対象者を家屋建築者と限定し、樹種も限定したことから事業費を減額。	影響なし		●
事業活用調査									
まちづくり活動推進事業	安心安全のまちづくり事業	3	安心安全に関する講習会などの開催、防犯灯の設置	3	安心安全に関する講習会などの開催、防犯灯の設置	―	―		●

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

（参考）関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費 当初計画	事業費 最終変更計画	事業期間 当初計画	事業期間 最終変更計画	進捗状況及び所見	備考
上之土地区画整理事業（特会）		上之	23,565	23,565	平成5年～平成32年	平成5年～平成32年	平成32年の事業完了に向け、事業を推進している。	

添付様式2－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指　標		単位	データの計測手法と評価値の求め方（時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値（ア）	基準年度	従前値（イ）	基準年度	目標値（ウ）	目標年度	数値（エ）			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
															あり	なし
指標1	幅員6m以上の道路整備率	%	平成27年7月時点に通行可能な幅員6m以上の道路、及び、評価基準日（平成28年3月31日）までに通行可能となる予定の道路の整備延長を図上算定し、全道路整備延長に対する整備率を算定する。	―	―	20.5	H22	26.5	H27	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定 見込み ●	24.4	事後評価	△		
指標2	安心・安全のまちづくりに関する啓発事業参加者数	人/年	平成23年度から平成27年度までの5ヵ年に開催した、安心・安全のまちづくりに関する啓発活動の年間合計参加者数を5ヵ年平均にて算出する。	―	―	15	H22	50	H27	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 ● 見込み	53	事後評価	○		
指標3										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み		事後評価			
指標4										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み		事後評価			

指　標	目標達成度○△×の理由（達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む）	その他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）
指標1	事後評価の時点では、目標達成に至らなかったものの、土地区画整理事業により街路築造が行われたことで、着実に整備率が向上している。 しかしながら、移転の遅れ等により、交付期間内での目標値の達成は困難であると判断する。	―
指標2	安心・安全のまちづくりに関する啓発事業として開催された講習会は、毎回、住民の関心が高いテーマを設けたことで多くの参加があり、一定の成果が得られた。	―
指標3		
指標4		

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。
※2　目標達成度の記入方法
○：評価値が目標値を上回った場合
△：評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
×：評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式２－②　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測

指　標		単位	データの計測手法と評価値の求め方（時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値（ア）	基準年度	従前値（イ）	基準年度	数値（ウ）			本指標を取り上げる理由	その他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）
その他の数値指標1	埋蔵文化財発掘調査見学会参加延人数	人	平成27年11月までに実施した、埋蔵文化財発掘調査現地見学会の参加者の延人数の集計により求める。	―	―	1,245	H22	モニタリング			埋蔵文化財発掘調査見学会の参加人数より、住民が歴史・文化にふれる機会の増加を説明するため。	大目標「歴史・文化にふれる機会を住民に提供する」の効果発現の計測を補完する。
								事後評価	確定	2,629		
									見込み ●			
その他の数値指標2	窃盗事件発生件数	件	地区内（中西4丁目）における窃盗事件発生件数を熊谷警察署提供資料（平成27年4月～7月）より確認する。	―	―	5	H22	モニタリング			犯罪件数の減少により、安心・安全のまちづくり事業の講習会開催と防犯灯設置の相乗効果を説明するため。	目標2「安心安全なまちづくりを目指し、地域交流を推進する」を補完する。
								事後評価	確定	1		
									見込み ●			
その他の数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定			
									見込み			

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。

添付様式２－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

土地区画整理事業による整備が先行している第3号公園は、自治会がプランターを設置する等、みどりの拠点としての活用と相まって、住民同士の交流が促進され地域のコミュニティ強化につながった。

（2）実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式３－①　モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由　　)			

添付様式３－②　住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
埋蔵文化財発掘調査現地見学会	予定どおり実施した	●	平成23年7月より、年間2～3回程度（計10回）見学会を開催した。参加者からは、歴史に興味を持つきっかけになったとの声が挙げられた。	発掘調査の状況に応じて今後もイベントの開催を検討する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由　　)			
緑化推進社会実験	予定どおり実施した	●	上之土地区画整理事業区域内で事業開始以降に住宅を新築した人を対象に、記念樹の購入費の助成を行った。	地元の状況を見ながら、他の手法の検討も含め今後も更なる緑化の推進を図る。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由　　)			
安心安全のまちづくり事業	予定どおり実施した	●	平成23年8月より、年間2～4回（計12回）講習を開催した。講習内容は「防災講習会」「防犯講習会」「認知症サポーター養成講座」「高齢者体力測定会」など、多岐にわたる。毎回、一定人数の参加があり、住民の安心安全に関する意識の向上につながった。	住民の日常の安心安全に対する意識を向上させるだけでなく、地域の交流にもつながるため、住民主体による継続実施を支援する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由　　)			

添付様式３－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況		実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
			ⅰ．体制構築に向けた取組内容	ⅱ．まちづくり組織名：組織の概要	
なし	予定どおり実施した				
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった (理由　　)				

（3）効果発現要因の整理

添付様式4－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価　庁内検討会議	市民部　安心安全課 建設部　管理課、維持課、下水道課、河川課 都市整備部　都市計画課、公園緑地課、 土地区画整理西部事務所	平成27年10月19日	土地区画整理中央事務所

添付様式4－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		その他の数値指標1		その他の数値指標2	
指　標　名		幅員6m以上の道路整備率		安心・安全のまちづくりに関する啓発事業参加者数		埋蔵文化財発掘調査見学会参加延人数		窃盗事件発生件数	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	公園（第3号公園）	―	土地区画整理事業により、街路築造や建物移転、排水施設及び用水路が整備され、狭隘道路の解消が進むことにより、地区の課題である防災面や緊急車両の通行への問題解決が進むとともに、通学路等の交通安全に対する不安解消が進み、地区の住環境の快適性と交通利便性が向上した。	△	安心安全のまちづくりに関する講習会の屋外会場としても活用可能な第3号公園が整備されたとともに、年複数回講習会を開催したことで、多数の参加があり、住民の意識向上に寄与した。 また、講習会と第3号公園整備の相乗効果により住民同士の交流が促進され、地域コミュニティの強化につながった。 更に、安心安全のまちづくり事業の一環として防犯灯が整備され、夜間の安全性が向上した。	―	埋蔵文化財発掘調査見学会及び出土品の展示会を開催したことにより、地域の歴史・文化に触れる機会が提供でき、多くの住民の参加が得られた。 住民の参加状況から、当初期待していた、住民の交流と歴史文化に対する意識向上に寄与できたと評価できる。	―	安心安全のまちづくりに関する講習会開催により、住民の防犯意識の向上につながった。 また、土地区画整理事業により道路整備が進んだことで、見通しの良い道路環境の形成とともに防犯灯が設置され、犯罪件数が減少した。
	土地区画整理事業（上之）	◎		―		―		○	
提案事業	埋蔵文化財発掘調査現地見学会	―		―		◎		―	
	緑化推進社会実験	―		―		―		―	
	安心安全のまちづくり事業	―		◎		―		◎	
関連事業	上之土地区画整理事業（特会）	◎		―		―		○	

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	狭隘道路の解消に向け、引き続き、土地区画整理事業による道路整備を推進する。	住民主体により引き続き講習会等を開催できるよう、住民の意識向上と地域住民の連携強化を促進する。	発掘調査終了後も地域の歴史・文化を伝える取り組みを検討する。	住民主体による安心安全のまちづくり活動を更に推進する。

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価　庁内検討会議	市民部　安心安全課 建設部　管理課、維持課、下水道課、河川課 都市整備部　都市計画課、公園緑地課、 土地区画整理西部事務所	平成27年10月19日	土地区画整理中央事務所

添付様式5－②　まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと（課題の改善状況）	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
過去5ヵ年事業を実施したが、未だ下水道、道路整備等の都市基盤整備が遅れているため住環境が著しく悪化している。	・土地区画整理事業により、下水道、道路等の都市基盤整備が進捗したことで、快適な住環境が形成されつつある。	・土地区画整理事業は継続中であり、住環境の快適性の向上が必要な箇所が残されている。	・土地区画整理事業を通じて、宅地として利用可能な土地が新たに創出されたことで、今後は地区内への居住を促進するとともに、新規居住者が溶け込みやすいコミュニティの醸成が必要である。
地区境まで都市計画道路が供用開始されているため、中心市街地への移動のために地区内の狭隘な道路を走行する車両が増加傾向にあり、通学路等の交通安全に対する不安が高まっている。	・土地区画整理事業により道路整備が行われたことで、安全な道路環境が形成されつつある。	・土地区画整理事業は継続中であり、地区内に道路整備が完了していない部分が残されていることから、快適な交通環境創出に向けて事業の促進が必要である。	
犯罪や災害に対する住民の不安が高まっている。	・安心安全のまちづくり事業で講習会を開催することにより、不安を軽減・解消するとともに、防犯・防災に対する意識の向上につながった。 ・防犯灯の設置により、夜間の安全性の向上につながった。	―	
地区内には樹木等が少なく緑が少ない。	・第3号公園への植栽設置による緑とふれあう空間の創出や、緑化推進社会実験の実施により、地区内の緑化が促進された。	・土地区画整理事業が継続中のため、地区内の緑の要素となる公園が一部未整備である。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式５－③　今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	安心安全なまちづくりの維持・継続	・安心安全のまちづくりに関する情報提供を継続して行う。 ・住民主体による講座等イベントの開催や、市広報などにより情報提供を行うことで、住民の防災・防犯に対する意識の向上を図る。 ・道路整備を引き続き実施する。	・講習会開催や広報の配布など ・道路整備事業の推進、拡充
	地域コミュニティの強化	・今後見込まれる新規居住者が溶けこみやすい住環境の形成に向け、住民主体のまちづくり活動支援や活動の場を提供することで、住民間の交流を促進する。 ・住民の交流の場となる公園整備を推進する。	・地域交流の推進 ・公園整備の推進

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改　善　策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	魅力的な住環境と快適な交通環境の創出	・土地区画整理事業の完了に向け、今後も事業の進捗を図る。 ・地域住民の生活道路の改善を行うため、道路整備事業を継続的に実施する。 ・公園整備を推進するとともに、公園内の緑化を図る。	・土地区画整理事業の推進 ・公園整備（植栽設置）の推進

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式５－③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。（チェック欄）

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題（都市再生整備計画）を再確認した。
●	事業の実施過程の評価（添付様式３）を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用（添付様式４－②）を再確認した。
－	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針（添付様式４－③）を再確認した。
●	残された課題や新たな課題（添付様式５－②）を再確認した。

添付様式５－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・現時点では時期尚早であるが、今後も道路が整備されることで住民以外の人が地区内を通行するようになると、防犯対策の検討が必要になると思われる。
・今後、新規居住者の増加に伴いごみ集積所を新設する場合は、設置場所についてトラブルにならないよう、配慮が必要である。

添付様式５－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式２－①、２－②に記載した全ての指標について記入して下さい。
・従前値、目標値、評価値、達成度、１年以内の達成見込みは添付様式２－①、２－②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、１年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指　標		単位	従前値	年度	目標値	年度	評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画 予定時期	計測方法	その他特記事項
指標１	幅員6m以上の道路整備率	%	20.5	H22	26.5	H27	確定		24.4	△	あり		平成28年5月	平成27年4月から平成28年3月までの「幅員6m以上の道路整備率」を把握し、評価基準日における確定値とする。	
							見込み	●			なし	●			
指標２	安心・安全のまちづくりに関する啓発事業参加者	人/年	15	H22	50	H27	確定	●	53	○	あり		—	—	
							見込み				なし				
指標３				H		H	確定				あり				
							見込み				なし				
指標４				H		H	確定				あり				
							見込み				なし				
指標５				H		H	確定				あり				
							見込み				なし				
その他の数値指標１	埋蔵文化財発掘調査見学会参加延人数	人	1,245	H22			確定	●	2,629				—	—	
							見込み								
その他の数値指標２	窃盗事件発生件数	件	5	H22			確定		1				平成28年5月	熊谷警察署提供資料より平成27年度の窃盗事件発生件数を確認し、評価基準日における確定値とする。	
							見込み	●							
その他の数値指標３				H			確定								
							見込み								

添付様式6　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	指標2「安心・安全のまちづくりに関する啓発事業参加者数」について、参加者数を把握することで、防災・防犯に対する住民意識を経年的かつ定量的に把握することが出来た。	・毎年算出できる指標を数値目標として選定することを今後も実施していく。
	うまく いかなかった点	―	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	―	・単一事業によらない指標を設定することに配慮する。
	うまく いかなかった点	指標1「幅員6m以上の道路整備率」は快適性の向上かつ交通利便性の向上に大きく寄与すると想定した指標であったが、移転の遅れにより目標値の達成に至らなかった。また、区画整理事業以外の事業と指標の関係性がわかりにくいものとなってしまった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	安心安全のまちづくりに関する講習会等を開催する際には、事前に自治会等の組織を通じて、十分な周知を行ったことで、多くの参加を得ることができた。	・情報発信には、行政と自治会等の組織との連携が有効であり、引き続き連携を図る。
	うまく いかなかった点	―	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	―	―
	うまく いかなかった点	―	
その他	うまくいった点	―	―
	うまく いかなかった点	―	

添付様式6－参考記述　今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

今後、事後評価を予定している地区
・熊谷市中心市街地地区（H29年度）

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成27年11月4日～11月19日	平成27年11月4日～11月19日	担当課へ 持参、郵送、FAX、電子メール	土地区画整理中央事務所
広報掲載・回覧・個別配布	市広報にて、住民公表をする旨を掲載	平成27年11月号（市広報）	平成27年11月4日～11月19日		
説明会・ワークショップ	―	―	―		
その他	土地区画整理中央事務所窓口で閲覧	平成27年11月4日～11月19日	平成27年11月4日～11月19日		

住民の意見	なし

（6）評価委員会の審議

添付様式8　評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	立正大学地球環境科学部　教授	第1回：平成27年10月2日 第2回：平成27年12月18日	土地区画整理中央事務所	熊谷市上之地区都市再生整備計画事後評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	上之土地区画整理審議会　会長 上之土地区画整理審議会　委員（市議会選出・学識経験）				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適切に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・その他の指標2「窃盗事件発生件数」について、地区の一部を抜粋した数値を指標としていることに対して質問があったが、統計の都合上、地区全体の数値を把握出来ないため、地区内で実施した施策の評価をするために地区内の4分の1程度を占める中西4丁目の件数を採用している旨を説明し、了承を得た。
	実施過程の評価	・実施過程の評価は適切に行われたと認められた。
	効果発現要因の整理	・効果発現要因の整理は適切に行われたと認められた。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表は適切に行われたと認められた。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・公園内の緑化に関して、落葉等の問題点にも配慮した検討を進めて欲しいとの意見があった。 ・区画整理事業の進捗に合わせ、ゴミ集積所の検討や、防犯対策を引き続き検討する必要があるとの意見があった。 →今後のまちづくりの検討において配慮していく。
	フォローアップ	・フォローアップ計画に基づき、実施することを確認した。
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他		・事後評価結果の公表について、来年度の区画整理だよりへ掲載してはどうかとの提案があり、検討する旨を回答した。

※1　審議事項の詳細は「評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画（第１回変更）

上之（かみの）地区

埼玉県（さいたま）　熊谷市（くまがやし）

平成２５年３月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	埼玉県	市町村名	熊谷市	地区名	上之地区	面積	53 ha

計画期間	平成 23 年度 ～ 平成 27 年度	交付期間	平成 23 年度 ～ 平成 27 年度

目標

大目標:住環境の整備改善と地域交流を推進し、快適で安心して暮らせるまちづくりを目指すとともに、埋蔵文化財発掘調査により歴史・文化にふれる機会を住民に提供する。
目標1　土地区画整理事業の推進により、宅地として利用可能な土地を整備するとともに、排水設備、街路等の整備改善により、住環境の快適性と交通利便性の向上を図る。
目標2　安心安全なまちづくりを目指し、地域交流を推進する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況
・当地区は熊谷市の中心市街地に隣接し、JR熊谷駅から1.5kmの徒歩圏に位置し、北西側を北東から南西に県道熊谷羽生線が走り、地区境まで都市計画道路県道熊谷谷郷線、第2北大通線が供用開始または一部供用開始されている。
・地区内では宅地と農地が混在し、一部民間による無秩序な開発によりスプロール化が進んでいる。今後、市街化の進行にともなう人口増加が見込まれる当地区において、都市計画道路をはじめとする道路・上下水道等の都市基盤施設の整備改善を行うことにより、良好な住環境を確保し、今後の住宅供給に対応した計画的な市街地の形成を図ることを目的に平成5年から『熊谷都市計画事業上之土地区画整理事業』に取り組んでいる。
・道路に関しては中央を東西南北に走る幅員4mの市道の外は、未整備な道路が大部分をしめている状況であり、防災面や緊急車両の通行にも問題を来す箇所も少なくない。また、近年、地区境まで一部供用開始されている都市計画道路から中心市街地への移動や、中心市街地から郊外への移動として、地区内の現道を利用する自動車が増えている傾向にあり、地区に隣接する小中学校の通学路となっているため、交通の安全面でも問題となっている。
・地区内には農業用水と生活排水の流出先として使用されている水路が多数存在し、廃止及び付け替え等の整備が必要となるため事業進捗に影響を与えている。
・上之地区については地区のほとんどが埋蔵文化財の包蔵地となっているため、事業の進捗に合わせて試掘・発掘調査が行われ,平成21年度から近隣の2つの小学校を対象に現地見学会を実施し、今後も事業の継続が期待されている。
・公共施設整備では、上水道については未だ井戸を使用している住民も多数存在し、下水道に関しては流末に近い部分から整備が進んでいる状況であり、過去5ヵ年の事業により整備が進んだがさらなる整備が求められている。
・ 本市では夏期の暑さが全国的に知られ、当地区においては樹木等が少なく、木陰で休むような場所は限られている。
・当地区は複数の自治会で構成されており、自治会によって安心安全に対する取り組みや意識も違っている。
・平成18年度から平成22年度にかけて都市再生整備計画に基づく事業を実施し、宅地として利用可能な土地面積割合や建築行為等許可申請平均件数の増加等、事業の進捗に一定の成果を得たがさらなる整備が期待されている。

課題
・過去5ヵ年事業を実施したが、未だ下水道、道路整備等の都市基盤整備が遅れているため住環境が著しく悪化している。
・地区境まで都市計画道路が供用開始されているため、中心市街地への移動のために地区内の狭隘な道路を走行する車両が増加傾向にあり、通学路等の交通安全に対する不安が高まっている。
・犯罪や災害に対する住民の不安が高まっている。
・地区内には樹木等が少なく緑が少ない。

将来ビジョン(中長期)
“熊谷都市計画区域の整備、開発及び保全の方針”では重点的に市街地再開発事業を行う区域となっており、早期完了を推進しそのビルトアップを促進するという方針が出されている。また、“熊谷市総合振興計画(くまがや市民スクラム計画)”では、「快適でゆとりのある街づくり」に位置づけられ、土地区画整理事業が進行中である。
土地利用構想では住宅系地域に属し、安全で良好な居住環境を形成するため、区画道路や上下水道の整備を積極的に行うとしている。

目標を定量化する指標

指　標	単　位	定　義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
幅員6m以上の道路整備率	%	都市基盤整備による一定以上の幅員の道路整備率	街路等の整備改善により、住環境の快適性と交通利便性のある区画道路の整備率を指標とする。	20.5	23	26.5	27
安心・安全のまちづくりに関する啓発事業参加者数	人/年	住民の意識向上を図るための啓発事業への参加人数(年平均)	安心安全のまちづくりのための啓発事業について内容及び参加者の対象を広げて実施し、より多くの人の安心安全に対する意識が向上することを目標とする。	15	23	50	27

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
・住宅環境改善、交通利便性の向上のため街路築造、建物移転、排水施設及び用水路の整備を過去5年間の事業に続いて整備を行う。また、地区内には樹木等が少なく、地球温暖化対策の一つとして、新築（曳家を含む）した人に、記念樹となる苗木を配布し緑化を推進する。	基幹事業（土地区画整理事業） 上之地区 基幹事業（公園） 上之地区第3号公園 提案事業（地域創造支援事業）上之地区＜緑化推進社会実験＞ 関連事業（特会）上之土地区画整理事業
・埋蔵文化財発掘調査現場にて現地見学会を実施することにより、地域住民や小学生に対して歴史にふれあう機会を提供する。	提案事業（地域創造支援事業）上之地区＜埋蔵文化財発掘調査現地見学会＞
・地域住民への安心安全に対する意識啓発のため、安心安全のまちづくりに関する講習会等を開催することにより、防犯・防災等への取り組みをサポートする。また、防犯灯の設置を進めるなど、犯罪に対する住民の不安を軽減する。	提案事業（まちづくり活動推進事業）上之地区＜安心安全のまちづくり事業＞

その他

〇基幹事業（土地区画整理事業）について
・街路及び排水等の施設を整備することで、使用収益を開始できる画地が増え、新たな住宅が建築可能となる。
・国道17号バイパスから中心市街地への移動に使用される地区内の幹線道路の交通量の分散化が期待できる。

〇提案事業（埋蔵文化財発掘調査及び地域交流イベント）について
・埋蔵文化財発掘の現地見学会や体験学習等を開催することで住民の交流と歴史的文化に対する意識を高めることが期待できる。
・警察・消防・自治会等と協力し地区住民対象の防犯、交通安全（自転車の乗り方指導等）、防災等の講習会等を開催し、地域住民の交流を図ることで地域の活性化を図るとともに、安心安全のまちづくりを促進する効果も期待できる。
・地域の緑化推進を進めることで、わずかではあるが地球温暖化対策としての効果が見込まれる。

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	756.0	交付限度額	302.4	国費率	0.4

（金額の単位は百万円）

基幹事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	
道路															
公園		第3号公園	熊谷市	直	—	H25	H27	H25	H26	13	13	13		13	
古都及び緑地保全事業															
河川															
下水道															
駐車場有効利用システム															
地域生活基盤施設															
高質空間形成施設															
高次都市施設															
既存建造物活用事業															
土地区画整理事業		上之	熊谷市	直	53ha	H5	H32	H23	H27	1,800	738	738		738	
市街地再開発事業															
住宅街区整備事業															
地区再開発事業															
バリアフリー環境整備促進事業															
優良建築物等整備事業															
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型														
	沿道等整備型														
	密集住宅市街地整備型														
	耐震改修促進型														
街なみ環境整備事業															
住宅地区改良事業等															
都心共同住宅供給事業															
公営住宅等整備															
都市再生住宅等整備															
防災街区整備事業															
合計										1,813	751	751	0	751	…A

提案事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	
地域創造支援事業	埋蔵文化財発掘調査現地見学会	上之	熊谷市	直	—	H21	H32	H23	H27	1	1	1		1	
	緑化推進社会実験	上之	熊谷市	直	—	H24	H27	H24	H27	1	1	1		1	
事業活用調査															
まちづくり活動推進事業	安心安全のまちづくり事業	上之	熊谷市	直	—	H22	H27	H24	H27	3	3	3		3	
合計										5	5	5	0	5	…B
													合計(A+B)	756.0	

（参考）関連事業

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	（いずれかに○） 直轄	補助	地方単独	民間	事業期間 開始年度	事業期間 終了年度	全体事業費
上之土地区画整理事業（特会）	上之	熊谷市	国土交通省	53．0ha		○			H5	H32	23,565
合計											23,565

都市再生整備計画の区域

上之地区(埼玉県熊谷市)	面積	53 ha	区域	上之字向諏訪、字五田塚、字熊野、字衣川、字畳免、字前中西、字藤之宮;箱田字郷戸;中西四丁目,字中西

